

# 平成24年度スーパーバイザー事業報告書

## 研究テーマ「わくわく！いきいき！本や人との出会い」

～図書や資料を活用した言語活動の充実と、自ら学ぶ力・伝え合う力の育成～  
鳥取市立青谷小学校

### 1 はじめに

本校は、平成19年度に青谷町内の5つの小学校が統合してできた学校である。統合後3年間は南北2校舎に分かれていたが、校舎の大規模改修を終えて、平成22年4月に完全統合となった。本年度は、完全統合3年目である。

学校統合に伴う移転・図書の引っ越し作業などで本校の学校図書館は、しばらく大変な状況が続き、図書ボランティアの読み聞かせや朝読書は継続されていたものの、図書館活用は不十分であり、読書量も伸び悩んでいた。

完全統合初年度は仲間づくりに力を入れ、その成果もあって、課題に対して前向きに取り組もうとする意欲的な姿が多く見られるようになった。しかし、自ら課題を見つけたり、追究したりする力が弱く、自分の考えを伝え合う力も不十分であった。

### 2 研究のねらい

平成23年度に上記の研究主題を設定し、①学習に図書館を積極的に活用していくこと②本や資料・人との出会いを適切に仕組んでいくこと③生涯学習につながる読書習慣を身につけさせていくことに重点的に取り組み、活用型・探究型の課題解決学習をめざして授業改善に取り組むことにした。

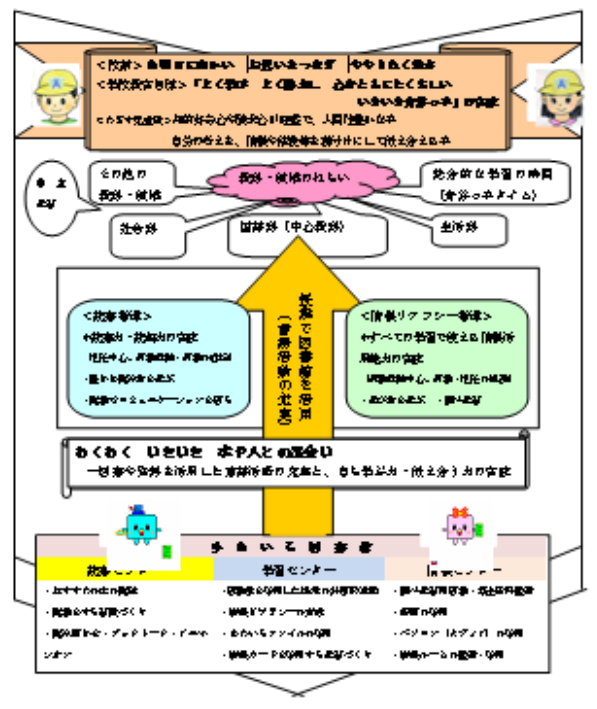
その結果、図書館を活用しなくても、授業は成立するが、図書館を利用すると、授業がより豊かなものになるという手ごたえを感じることができた。また、あくまで「教科のねらいを達成するため」の手段としての図書館の活用であるが、司書教諭、学校図書館司書の力を借りることで、情報を活用したアカデミックな授業ができるという楽しみを見出すこともできた。それとともに、発達段階に応じた児童の情報活用能力を系統的に育成していかないと、児童主体の課題解決学習はできないことに気付くことができた。

そこで、平成24年度も上記の研究主題のもと、図書館を活用して計画的に学び方指導を行い、情報リテラシーを育成しながら確かな課題解決学習を積み上げていくことにした。

現在の知識基盤社会を生き抜くためには、多様な情

報を上手に取捨選択し整理していく能力が必要とされ、現行の学習指導要領では、「言語活動の充実」が重要視されている。知的活動を促進し、活用型、探究型の学びを展開する拠点として学校図書館を位置付けることで、自発的・主体的な学習活動が展開されるようになり、子どもたちの生き生きと学ぶ姿が見られ、変化の激しい現代社会の中においても生涯学び続けていくことのできる力が身についていくものと考え。

### <研究の構想図>



### 3 研究の内容

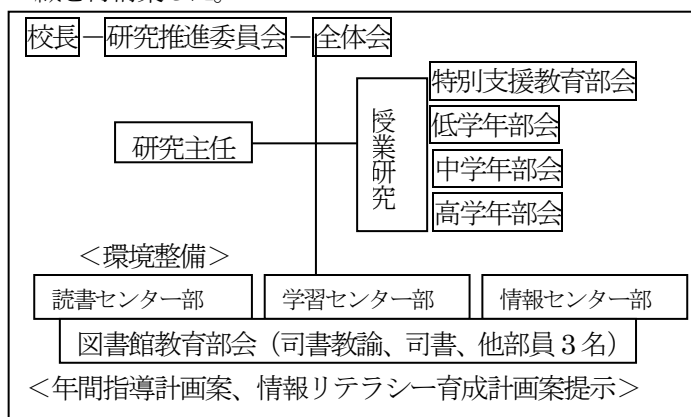
#### (1) 研究の視点

- ①図書館の活用で、情報リテラシーをいかに身につけさせていくか。
- ②自分の考えを体験や情報の裏付けを持って伝え合い、学習課題を追究し合う場面を、どのように位置づけるか。
- ③図書館活用のベースとなり、豊かな心を育む読書力・読書習慣をいかに身につけさせるか。

#### (2) 研究組織づくり

23年度後半からの研究組織を引き継ぎながら、全

職員で研究や環境整備にあたることができるように組織を再構築した。



### (3) 授業研究会・理論研究会

4月下旬から授業研究会がスタートした。研究教科は国語科を中心教科とし、社会科、生活科、総合的な学習の時間に絞った。以下の23年度の授業研究の実績をふまえ、さらに前進をめざすことにした。

<23年度：研究授業一人1回、学習公開2回>

国語…18回	総合…2回	社会…5回
生活…4回	音楽…1回	図工…1回
外国語活動…3回	自立活動…5回	

○索引の扱い方（1年：生活、4年：総合） ○研究テーマの決め方（3年：国語） ○情報カードの活用（4年：国語、3年国語） ○映像資料の活用（5年：社会、6年：音楽） ○郷土資料の活用（2年：国語、5年：図工） ○データ、資料、地図の活用（3年：社会） ○読書に親しむ、読書を広げる（1年：国語、2年：国語） ○自主学习に図書を活用（3年：社会）

<24年度：夏休みまでに一人1回>

国語…6回	総合…2回	社会…2回
生活…2回	自立活動…1回	

どの授業でも授業者のアイディアと図書の力で、子どもたちが知的好奇心を高めながら意欲的に学び、学び方を習得していく姿がみられ、授業研究会での教職員の発言内容・協議内容もレベルアップしていった。

指導助言は、小谷喜美子教頭先生（湖山小）、北村順子副校長先生（附属小）、田中精夫先生（前用瀬小校長）児島陽子先生（附属特別支援学校）にお願いした。

#### <スーパーバイザーの役割>

県教育センタースーパーバイザー大平睦美先生（京都産業大学客員教授）に、以下の授業研究・理論研修会でご指導いただいた。研究2年目ということで、昨

年度より少しでも前進することをめざして、情報活用が専門の大平先生に指導をお願いしたいと考えた。

- ① 5月23日（水）授業研究会
  - 1年1組 生活 「みんななかよし」
  - 2年1組 国語 「よく見て書こう」
  - 2年2組 生活 「春はっけん」

<指導助言より>

- ・ 異学年で同じような言語活動をするときには、特に、目標・レベルの設定をきちんとしたい。
- ・ 学習場面での力は、読書量に裏付けられている。6年間の積み上げが問われる。図書室に児童が行く時間を確保する担任の学級は読書量が増える。

- ② 6月6日（水）授業研究会

- 3年1組 国語「なぞときは読書のあとで」  
教材文「ゆうすげ村の小さな旅館」
- 4年1組 国語「クライマックスを見つけよう」  
教材文「走れ」

<指導助言より>

- ・ 教材文をベースに、児童の意欲が高まる図書資料の活用が工夫されていた。
- ・ 読書サークル（リテラチャーサークル）の方法が4年生向きに工夫されていて、有効であった。
- ・ 「話形」カードを必要に応じて選択できるようになっていて、3年生の話形指導に効果的であった。

- ③ 8月3日（金）夏季1日研修会

○講義1

「司書教諭を中心にした3者協働の情報リテラシーの育成」

○講義2

「情報カードの有効な活用方法」

- \* 司書教諭・学校図書館司書・担任の3者の協働のために、それぞれが担うべき役割について学んだ。職務内容一覧表にチェックを入れることで、分担を振り返ることもできた。情報カードの活用法についても基本的な考え方や具体的な活用例を学ぶことができた。

○演習

「情報リスト（図書・メディア・資料）づくり等、図書館活用の実際」

- \* 今後、図書館を活用した学習を予定している単元について、各自が情報リストづくりに取り組んだ。まず、本校にあるものを書架から取り出し、ブックトークをしやすいように並べ方も工夫した。ネ

ネットワークシステムで収集したい情報のリストアップもしたかったが時間的な余裕がなく、関連図書だけを集めた。それでも、かなりの資料が揃い、本校図書館の充実ぶりが確認できた。

#### (4) 先進校視察

- ① 松江市立揖屋小学校視察…2年間で24名  
23年度は3回、24年度は5回視察
- ② 鶴岡市立朝陽第一小学校視察…2年間で6名
- ③ 全国学校図書館研究大会（米子大会）…8名参加  
\*本校司書教諭が分科会発表者

#### (5) 授業実践の積み上げ

##### ① 学び方年間指導計画に基づいて

日々の図書館活用の実践の中で、年間計画と情報リテラシー育成系統表が別々のままでは、実用的でないことに気付いた。そこで、学び方指導全体系統表に基づいて、年間活用計画の中に学習を通してつきたい力と、図書館の時間の指導の両方を位置づけて一本化し、計画的に授業実践を積み上げた。

○例<学び方指導年間計画 3年生> ☆図書館の時間

月	教科	単元	活動内容	情報活用能力
4	学活	オリエンテーション	図書館利用のマナーを確認する。	☆レファレンスサービス
	国語	本にしたしもう	読書記録のとり方を知る。	☆分類番号、出版社 ○課題に応じたメディアの利用
	国語	国語辞典の使い方を知ろう	国語辞典の使い方を知る。	○図鑑の使い方 ・目次、索引
	理科	身近な自然の観察	春の動植物を探す。	
5	国語	自然のかくし絵	要点をまとめる。考えと理由を分かりやすく話す。	☆要点のまとめ方 ○自分の意見のまとめ方
	国語	えらんだ理由を話そう	観察文を書く。	
	国語	観察したことを書こう	図書の分類と配架を知る。	○情報のまとめ方 ☆ラベルの仕組みと配架
	学活	本の探し方を知ろう		
6	国語	ゆうすげ村の小さな旅館	あらすじをまとめる。大事なことをメモに取る。	○あらすじのまとめ方。 ○簡条書きの仕方、メモの取り方。
	国語	話を聞いてメモをとろう	「びわ」について知りたいことを調べる。	☆情報カードについて知る 記録の取り方
7	総合	青谷の宝「びわ」		
7	国語	本はともだち	読書感想文への取り組み方を知る。	☆感想文の書き方

##### ② 司書教諭が図書館で指導する学習

図書館を学習センターとして積極的に活用するために、ブックくんルームに2学級が入れる学習スペースを整備し、大型テレビ・教材提示装置・ホワイトボードなども常設にした。

そして、週5時間の司書教諭の時間に、各学年週1時間ずつ図書館で学習する時間を位置づけた。各学年が年間15時間～20時間の計画で、図書館において司書教諭（中心）、担任、学校司書の3者が協働で図書館を活用した学び方指導を行った。

##### ③ 「あおやっ子学び」の授業研究

学び方を学ぶ「あおやっ子学び」を本校独自の課題追究型学習スタイルとして、学習過程を組む際に意識していくことにした。

<あおやっ子学び>

**あ** **新たな課題にアタック!** つかむ・調べる  
 ～ああそうか。できそう! やってみたい!～  
 ・課題をもつ ・個別に課題を追究する  
 ・図書や資料を活用して情報を得る

**お** **思いや考えを交流!** 伝える  
 ～おお、そういう考えもいいな!～  
 ・ペア学習、グループ学習で意見交換  
 ・情報カードの活用

**や** **やる気まんまん、山場の討論!** 深める  
 ～やったあ! みんなの力で深まった～  
 ・全体での交流・意見交換  
 ・プレゼンテーション (資料紹介)  
 ・根拠をもとに発言

**こ** **個に応じた評価で効果倍増!** ふりかえる  
 ～ここまで分かった、これはできる!～  
 ・わかったことのまとめ  
 ・学習のふりかえり、新たな課題登場

##### ④ 3センター部の取組 (全教職員が所属)

#### <「ゆめいろ図書館」の整備>

「ゆめいろ図書館」の名称は、22年度、児童に公募し決定した。増築棟を全館図書館とし、図書館にあるいろいろな部屋を、総合的にワークスペースとして活用できるように少しずつ整備進めていった。

ブックくん・しおりん・そうごう・ふるさと・じょうほう・コンピュータ・ふれあいルーム 等

